

加 佐

2学期終業式号
令和7年12月23日
舞鶴市立加佐中学校



<https://kasa-maizuru.edumap.jp/>



悩み

重たいタイトルでビックリさせましたでしょうか。終業式号なら「こんな学習をやりました!」「こんな成長がみられました!」と成果をお伝えする場面かもしれません。たしかにそれはたくさんあったんですが、とっても悩んだ2学期でもありました。いつも投げかけるとおり「いい学校って、どんなだろうね」を考えると「これで『いい学校』と言えるのだろうか?」と立ち止まることが多かった。校長がひとりでも悩んだところで、どうしようもないこと(学校の領分を越えていること)もあるんだけど、それも含めて大いに悩んだ。

2学期になって、生徒たちが終SHR(終わりの会)でやっている『自分ログ』が面白いんです。「LOG(ログ)」というのは、「履歴」とか「日誌」という意味(ちなみにログハウスのLOGも綴りは同じで、こちらは「丸太」の意味)。「じぶん履歴」とか「じぶん日誌」なら、ちょっと前までは「生活ノート」ってのを担任時代にやっていたことを思い出します。今はタブレット端末から入力すれば、生徒全員と共有できるし、誰かのつぶやきに、誰かがコメントを返す、なんてやり取りもしています。「誰かの・・・」としたのは、全員ペンネームで投稿するから。(このペンネームにも、センスが溢れていて面白い。)で!お返事コメントも、匿名だからこそその親切さ(おせっかい加減)と程よい距離感(放ったらかし加減)が絶妙です。つまり「〇〇で悩んでいます。」の投稿に「わかる～。そんな時は□□するのがイイと思うよ。」と共感しながら具体的な提案をするコメントもあれば、「気にしないことだね。」とアッサリとしたコメントもあって。(これも温かみなんですよね。)

前置きが長くなりました。先日、「自分ログ」のテーマに「大人に聞きたいことはありますか?」と投げかけました。すると「嫌いな人との接し方、どうすればいいですか?」「苦手な人との距離感に悩みます。」ちょっとドキッとしますが、保育園のときから少人数で「みんな仲良く!」を実践してきた子どもたちが、「自我」とともに「好き」と「嫌い」の「心のオキドコロ」に闘っています。さ～て!おとなとして、この問題にどう答えましょうか。先ほどの「自分ログ」にこの悩みを共有すると、「距離をとればいい。」とか「必要な時以外は関わらないようにする。」という意見が多いように感じました。当然です。ストレスの元から「逃げる・避ける」は、基本的な発想だと思う。でも思春期・成長期の『苦手』の存在は、「心の成長に必要な材料」であることにも気づいてほしい。(持久走もこんな類でしょうか)コメントの中には「嫌いがゼロになることはない。」「ポジティブに考える」「相手のいいところを見つける」など捉え方を変えようとする意見もみられます。これから、自分たちでどうやって乗り越えるか?(どう向き合うか?)見守りたいです。(おとなが言うと説教になるので、見つけるまで待つしかないか)今も昔も、どうやら「ひとの悩み」は同じらしく、過去の偉人も言葉を残しています。

「人間の悩みは、すべて対人関係の悩みである」(アドラー:オーストリアの心理学者)

「他人に対して感じる『苛立ち』や『不快感』は、自分がどんな人間なのかを教えてくれる」(ユング:スイスの心理学者)

「汝の敵を愛せよ」(キリスト) 「憎しみは憎しみによって止まず、ただ愛によって止まる」(ブッダ)

「嫌いな人がいたら、好きになるところまで離れればいいのかよ」(よしもとばなな:小説家)

「何かを嫌っている自分が嫌い。だから『み～んな、大好き!』と叫んでみよう。」(偉人じゃないけどやすのり)

よいお正月をお迎えください。

舞鶴市立加佐中学校 校長 阪口靖敬 教職員一同